

大西民子
を顕彰

薫風に歌人の面影



暖かな春の陽光のもと歌声を響かせた盛岡二高音楽部

盛岡市の 上の橋たもと 母校の生徒らと 碑前祭

第11回「きりらか歌碑」碑前祭が11日、盛岡市の上の橋たもととの歌碑前で行われた。盛岡市出身の歌人・大西民子(1902-45)を顕彰するもろおか民子の会(阿部正樹会長)主催。約100人が短歌「きりらか」については鳥の去のしあと長くかかひて水はしつまる」が刻まれた歌碑前に集い、盛岡で青春を過ごした民子の歌と人生に思いを寄せた。

大西民子は盛岡市八幡町生まれ。県立盛岡高等女学校(現盛岡二高)、奈良女子高等師範学校を卒業後、釜石高等女学校で教師を務めた。石川啄木に憧れて作歌を始め「まぼろしの椅子」など歌集の冊を刊行。追憶、詩歌文学館賞、紫綬褒章などを受けた。

歌碑は2009年に建立され、民子直筆の「きりらか」の歌、チエロ春著で作曲家の平井文一朗氏が同歌に曲を付けた際の譜面が刻まれている。

碑前祭には、もろおか民子の会、民子りが結成した「ささぎふと春の薫風」(はつと)短歌団の関係者、県歌人クラブなど、県内の文学関係者が出席した。

阿部会長は、10日に盛岡市先人記念館館長を訪ね、顕彰人に民子を加えてほしいと頼んだことを報告。「大西さんは亡くなった埼玉県でいろいろ顕彰されているが、古里盛岡ではまだまだ認知度が足りない。顕彰活動をこれから行い、皆さんの力を借りながら目標に向かって頑張りたい」と話した。

盛岡二高文学研究部は、部員代表3人が民子作品から「私の好きな一首」を紹介した。

部長の齋藤花枝(23)は「オリエントの位置もよくよく歌うふと春の薫風(はつと)の夜々」(9)「唄のまへ」を述べ、「民子さんはずっとああ、目下などしたものの変化を敏感に感じ取って歌っているのが好きだ」と

思っ、オリエントの位置疾風といった言葉の運び方もきれいな」と読み取った印象を語った。

続いて、吉田清美(23)は「しあわせは何とも定めがたき身は編(たま)びし指環(ゆびわ)の真玉(まへパール)やさし」、国枝可愛(22)は「このひらをくくほめて持ては青空の見えぬ傷より花はほれ来る」を紹介した。

同校音楽部は、民子の短歌に平井氏が作曲した「きりらか」や民子も歌った旧校歌などを歌い、澄んだハーモニーを響かせた。

副部長の細谷奏美(22)は「曲を通して、二高を1ルと違って歌いにくい点もあったが、来てくれた人に少しでも大西民子さんの歌の良さを感じてもらって良かった」と振り返る。宇話していた。

盛岡タイムズ 2019年5月13日(月)付
この写真と記事は盛岡タイムズ社の
承諾を得て転載しています。